

## 校庭整備のあり方検討について

### 1 主旨

小中学校の校庭整備は、区の標準設計仕様書において緑色スクリーニング（グリーンダスト）を基本としているが、一部の学校においては天然芝、ゴムチップ舗装による整備が行われている。しかしながら、砂埃や芝の養生など学校運営や地域利用への影響とともに周辺環境への配慮などの課題がみられる。

このような状況を踏まえ、今後の改築・改修時にあたっては、敷地状況に応じて仕様の比較検討を行い、校庭整備を進める必要があることから、他自治体においても採用実績がある人工芝による整備について調査・研究に取り組む。

### 2 取り組み内容

#### 1) 人工芝のモデル実施

人工芝の整備費は、グリーンダストと比較して割高ではあるが、人工芝の効果や課題などを把握するため、既存施設の状況等を踏えて対象校を1校選定し、令和2年度にモデル実施する。

なお、整備後、複数年にかけて学校運営や地域利用における効果検証を実施した上で、他校への採用の可否を検討する。

#### 2) 標準設計仕様書の見直し

校庭整備の仕様については、引き続き緑色スクリーニング（グリーンダスト）を基本としつつも、改築・改修時において、周辺環境などの敷地状況に応じ、人工芝などの全天候型も含めて整備手法を比較検討することとする。

### 3 その他

校庭の芝生化（天然芝）については、芝刈りなどの維持管理や年間1～2ヶ月程度の養生期間を要し、学校運営や地域利用への影響が大きいことから、今後、校庭トラック内が芝生化されている学校については、芝生範囲の見直しなども含めて対応方法を検討する。また、芝生の整備は、都の補助金を活用していることから、都と協議の上、改修範囲や時期について判断する。

なお、校庭への芝生化（天然芝）は、学校運営に支障とまらない範囲の整備を検討することとし、引き続き敷地内緑化を推進する。